

サイコパシー傾向者の罰行動に伴うコストに対する飲酒の習慣の影響について

HP25-0091A 上田直人

背景と目的

社会的動物である我々人間は、他者との相互作用によって関係性を構築しています。その相互作用の中で、報酬・罰が伴う状況下において、サイコパシー傾向者は健常者と比べて逸脱した反社会的罰行動を起こすことがあります。また先行研究から、サイコパシーの 2 因子の内、どの傾向が高いかにより、その行動は変化することが示されました。さらに、過度の飲酒行為が攻撃行動と関連があることが示されていることから、飲酒の習慣により、反社会的罰行動における反応抑制が起きる強度が異なることが考えられます。したがって本研究では、健常レベルの高サイコパシー傾向者において報酬および罰が伴う状況下での反応抑制は更新されるのか、そして一次性・二次性のどちらのサイコパシー傾向が高いかにより、それらの状況下での飲酒の習慣という要因の影響の違いを検討しました。

方法

神奈川県内の私立大学生 61 名が参加しました。経済ゲーム課題として 2 者罰ゲーム課題, サイコパシーの測定には PSPS, 飲酒の習慣の測定には AUDIT の質問紙を用い、コンピューター上で回答を行いました。

結果と考察

コスト, PSPS の合計得点, AUDIT の合計得点, コスト選択の反応時間について相関係数を算出しました。その結果, 問題飲酒の重症度は, 全体的なサイコパシー, 一次性・二次性サイコパシーとの正の相関が認められました。しかし, 問題飲酒の重症度と罰行動において伴うコストには相関は認められませんでした。また, 一次性サイコパシー・二次性サイコパシーと罰行動において伴うコストの間には相関は認められませんでした。2 者罰ゲームで参加者が支払った金額 (コスト) を目的変数, PSPS の合計得点と, AUDIT の合計得点を説明変数とした交互作用項のある重回帰分析を行いました。その結果, サイコパシー傾向と問題飲酒の重症度は, 自由度調整済み重決定係数が有意ではありませんでした。サイコパシー傾向と問題飲酒の重症度の回帰係数は, どちらも有意ではありませんでした。また, サイコパシーと問題飲酒の重症度において, 交互作用項は有意ではありませんでした。

相関分析, 重回帰分析の結果, 仮説を支持する有意な値は, 本研究では得られませんでした。今後, 実際のお金を用いて金銭的報酬がある状況下で, かつサイコパシー図る指標を見直し, 再度実験を行うことで, サイコパシーと飲酒の習慣の頻度が罰行動に伴うコストに与える影響を検討することができるのではないかと考えます。